



広報

つがる

2008
8月号
No.80

市の人口と世帯数(平成20年8月1日現在)人口33,517人(男18,374人・女20,143人)世帯数13,402世帯



市議会だより

6月定例会…22～29ページ

赤ちゃんの温もりから命の尊さ学ぶ

車力中学校3年生52人は7月4日、生命の大切さを学ぶ「赤ちゃんふれあい教室」を行いました。
【5ページに関連】

市の防災最前線

平成20年度つがる市総合防災訓練

災害時の冷静な行動と的確な判断は、日頃の訓練があつてこそできる。
7月11日、平成20年度つがる市総合防災訓練が市役所周辺で行われ、
防災関係機関・団体や地域住民など約350人が災害時の備えを確認しました。
訓練は、大規模地震を想定したもので、救助搬送訓練や消火訓練などが
本番さながらに繰り広げられました。



大地震により市役所から火災が発生した想定で、放水訓練を繰り広げる木造地区第1・2分団の団員



あらゆる災害状況を把握しながら迅速な指示を出す現場指揮本部



道路に放置された車両をジャッキアップさせて移動作業を行うつがる警察署員



救護所に搬送された救助者の脈拍を確認し、酸素マスクを装着させ応急手当をする消防職員



救助隊の活動は日々の訓練から培われ、災害から尊い命を守る。現場指揮官の指示に従い、市役所2階に取り残された要救助者を迅速な行動で助け出し、応急救護所へ搬送する

市と消防本部は現地災害対策本部及び現場指揮本部を設置し、救助隊が地震による火災で市役所内に取り残された要救助者を2階の窓から救助、負傷者を応急救護所へ搬送し応急手当を迅速に展開するなど本番さながらの訓練が繰り返し行われた。

また、呼吸停止状態で倒れている人を救助する訓練では、木造中学校の1年生たちが消防職員の指導に従いながら、AED(自動体外式除細動器)を使つての心肺蘇生を体験。社会福祉協議会はボランティアセンターを立ち上げ、災害ボランティア希望者の受付をし活動の希望調整、報告書及び二一ズ票等を作成する訓練などが行われた。

閉会式で福島弘芳災害対策本部長は「災害に対する心構えを持ち、関係機関・団体が連携を取りながら、本日の訓練を地域防災に役立ててほしい」と講評。いつ、どのように襲ってくるかわからない災害に、私たちは日頃からの訓練を通じて初動対応の確認をしておく必要があります。

自ら守る 大規模地震を想定した防災訓練 本番さながらの訓練が繰り返し行われる



災害ボランティア希望者の対応をする社会福祉協議会職員



消防職員の指導を受けながら人工呼吸をする木造中の生徒